

7 授業分析会の様子

参観の視点より

ハンドサインは、子どもたちの意見をつなぐ有効な手段になっていたか。

道徳的価値を深められる話し合いであったか。

ハンドサインを使うことで意見をつなげやすい

円坐での話し合いは意見が出やすく子どもが意見をつないでいた

つけたしがある子には、どのタイミングで意見を言わすべきか

賛成・反対の立場に分かれることで、話し合いが円滑に進められた

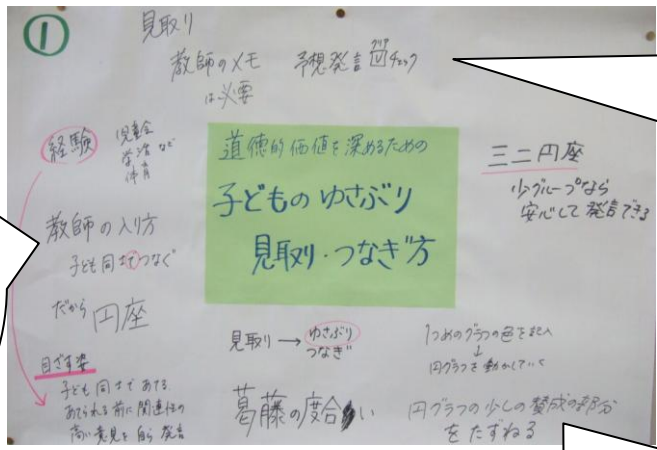


討議の柱

道徳的価値を深めるための子どものゆさぶり・見取り・つなぎ方

Aグループ

同じ意見やつけたしの意見を子ども同士で言い合うことで、意見を子ども同士でつなぐことができた

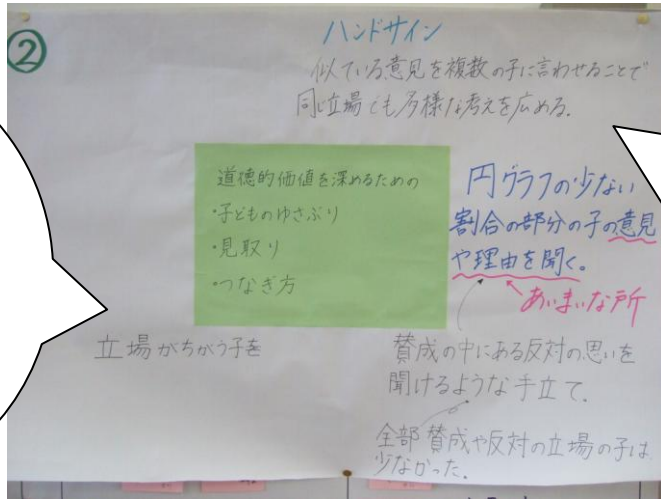


予想される子どもの発言を考えておくことは大切

賛成か反対なのかグラフの色で立場をあらわしていたのがよかった

Bグループ

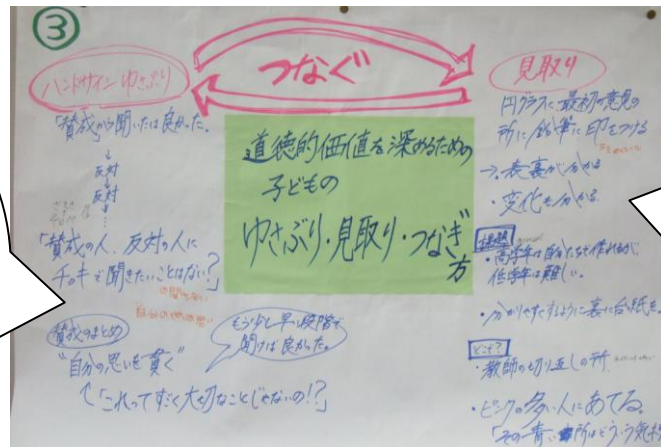
賛成に75%、反対に25%の立場としたら、25%の気持ちを聞けるといいな



多様な考えを深めるために、似ている意見を複数の子に発言させることは大切

Cグループ

反対の意見の人になぜその意見なのか質問することが大切



円グラフの色の変化がもっとわかるとよかったので、始めの場所にえんぴつで印をつけてもいいかな

今日のまとめ

道徳的価値を深めるには賛成と反対の間の思いに気づかせることが大切である。

8. 考察

日常より、他の教科においてもハンドサインを用いているため、子どもたちも自分の思いや考えをどのタイミングで、全員に発信したいかを考えて挙手できるようになってきた。これによって、個々の意見が全体につながり共感となる。自分の意見が他と異なることに不安を感じる子にとっては安心になる。ひとつの意見が繋がり、深まっていく様子があらゆる場面で見られるようになってきた。しかし、ハンドサインでは、その内容の詳細を読み取り切れなかったり、子どもの解釈と教師の意図とのずれが生じたり、価値を深めるために有効な授業展開を、考慮した指名ができないこともある。机間指導で質問したり、ワークシートをチェックしたりした上で、その詳細を把握した上で、ハンドサインを活用していくことが重要である。

もうひとつ、充実した話し合いをする手立てとして、心が見える教材を活用している。今回活用したのは、葛藤場面での2つの立場を2色のカードで表現する方法である。その他にも、円グラフで葛藤する2つの気持ちの大きさを表現したりしてきた。しかし、着目点が、Aの気持ち、Bの気持ち、AとB2つの気持ちで悩んでいる、という3つの立場の存在を把握して、話し合わせるだけにとどまってしまった。AとB2つの気持ちで悩んでいる児童には、その大きな面積を占める気持ちについて問い、掘り下げることも大切であるが、なぜ少ないながらももう一方の気持ちが残っているのかを問い、その観点で掘り下げる展開もより道徳的価値が深まるかもしれない。

